

# 福生における屋敷神についての一考察

河上 一雄

## はじめに

福生市内を歩いてみると、垣根やブロック塀ごしによく小さな祠があるのが目につく。屋敷地に、神が勧請かんじようされ祀られているのだが、こうした神や小祠を屋敷神と呼ぶ。

屋敷神を祀る風は、全国に広くみられ、ことに東京周辺では稲荷を祭神としての屋敷神が圧倒的に多く、歴史的にみても江戸で多かったのは「伊勢屋・稲荷に犬の糞」と称されたように、稲荷であった。

さて、福生市内に広くみられる屋敷神はどうであろうか。本稿では、福生市内のインタビューな調査をもとにして屋敷神の実態を明らかにし、屋敷神のありようを通して伝統的な福生の人々の暮し、ことに信仰生活のありさまを考えたい。

## 一、屋敷神の呼称と祭神

屋敷神の呼称は、全国的にみてもさまざまで、ウチガミ・ウジガミ・ウツガンといったり、祭神そのものを呼ぶ地域も多い。

福生市内では、殆んど祭神名で呼んでいるが、ではどのような神が祀られているだろうか。いくつかの地区をとりあげて紹介してみると、次のようになる。

### 。永田地区

正一稲荷大明神・豊川稲荷大明神・豊繁稲荷大明神・福徳稲荷大明神・福富稲荷大明神・穴守稲荷大明神・熊太郎稲荷大明神・猿田彦大明神・藍神あいらん様など

この地区では、圧倒的に稲荷が屋敷神として存在するが、注目されるのは「豊繁・福富・福徳」の各稲荷である。こ

これらの稲荷の呼称は、稲荷に対し何を期待しているかをよく表わしている。つまり、稲荷勧請にあたって豊作と福德とを願ったことである。このほか、熊太郎稲荷は勧請者の名をとって名づけられたと伝えられている。

また、稲荷がどこから勧請されたかは豊川・穴守稲荷の呼称がよく物語り、ことに穴守は羽田の穴守を指すとみなされる。

。熊川地区

正一位稲荷大明神・白笹稲荷・蚕影<sup>こかげ</sup>様・御岳様・山神様・弁天様・水神様・八幡様など

正一位稲荷大明神が多いが、注目されるのは屋敷神勧請にあたって祈禱師の介在がみられることである。ことに、ホタル公園の所に住んでいた祈禱師・大内ハナさんによって山神などが祀られ始めた<sup>と</sup>伝えられている。

。志茂地区

正一位稲荷大明神・笠間稲荷大明神・福德稲荷・徳明稲荷・心霊稲荷・小玉稲荷・水神・金山・諏訪・春日・弁天・金神<sup>こんじん</sup>・御岳<sup>みんがけ</sup>・御魂<sup>みたま</sup>霊神<sup>たま</sup>など

稲荷にまじって、実にさまざまな神が勧請されているが、注目されるのは御魂<sup>みたま</sup>霊神である。御魂<sup>みたま</sup>霊神の神格そのものは、この地区では不分明であるが、他地区の例と比較してみると、どうやら祖霊そのものを祭祀したものとみなされる。

。長沢地区

正一位稲荷大明神・豊川稲荷・伏見稲荷・熊野・弁天山神・不動・水神・金神・荒神<sup>あらい</sup>・竜神<sup>りゆうじん</sup>など

。加美地区

正一位稲荷大明神・豊川稲荷・末広稲荷・中野原稲荷・水神・弁天<sup>べんてん</sup>・地神<sup>ぢじん</sup>・八幡<sup>やっぴん</sup>・穴守稲荷・笠間稲荷・御霊神<sup>みたま</sup>・オシャモジサマ・ミタマサマなど

中野原稲荷は埼玉の中野原より勧請された<sup>と</sup>伝えられるほか、笠間や穴守から勧請した稲荷が存在する。

。鍋ヶ谷戸地区

正一位稲荷大明神・八幡<sup>やっぴん</sup>・水神<sup>みづかみ</sup>・弁天<sup>べんてん</sup>・ミタマサマ・山神<sup>やまかみ</sup>・穴守稲荷<sup>あなもり</sup>・霊神<sup>たま</sup>など

ここでのミタマサマ・霊神は、家を守る神と伝えられている。

。原ヶ谷戸地区

正一位稲荷大明神・東伏見稲荷<sup>あづまふしみ</sup>・不動<sup>ふどう</sup>・金神<sup>かねかみ</sup>・弁天<sup>べんてん</sup>・霊神<sup>たま</sup>など

ここでは、比較的多く霊神の存在が知られるが、霊神はやはり家を守る神であって、江戸後期の位牌が神体として祀られていると伝えられるのは注目される。

他地区も殆んど同じ傾向にあるが、屋敷神の呼称と祭神のありようから、次のようなことが判明してくる。

(一) 稲荷

屋敷神として圧倒的に稲荷社が存在するが、名称などから勧請地を推定してみると、伏見稲荷社・東伏見稲荷社・豊川稲荷社・穴守稲荷社・笠間稲荷社などである。各地の著名な稲荷社からの勧請であるのは当然であるが、いったいいつの時期に勧請されたのであろうか。たまたま、祠堂に次のような勧請書が残されていたので一つの手懸りとしてみたい。

### S家の稲荷勧請書

正一位稲荷大明神安鎮之事

右於本宮雖為奧秘因懇望

神事会修行奉勸選

大明神於其清地 武州多摩郡福生村  
某家尊神也

齋場矣無怠祭祀於尊信者

豊饒万福可有守護者仍如件

文化十三年

城州紀伊郡  
稲荷本宮祠官

仲春吉辰 正四位行陸奥守秦宿弥忠純

この勧請書は、文化一三（一八一六）年に京都伏見稲荷社より出されたもので、豊作と福德とをかなえる神としての稲荷の功験がうたわれている。この勧請書が一番古く、ついで安政五（一八五八）年、慶応三（一八六七）年のものがある。勧請年代のはっきりしないものが殆んどであるが、伝承や祠堂のありようからみて、稲荷社の勧請はそう古いことではないとみなされ、あえていうなら幕末近くに福生

地域に流行したのではなからうか。江戸において稲荷信仰が広がったのは、家康の関東入国以降のことで、一八世紀後半にはいると流行神として大いに各地に展開したとみられている。福生において一つだけ存在するのに、茶木稲荷があるが、この茶木稲荷は市ヶ谷にあるよく知られた稲荷社からの勧請と考えられ、穴守稲荷も同様であり、江戸で流行した稲荷信仰が福生にも入ってきたことをよく表わしている。また、幕末に流行した伊勢参りも京都伏見稲荷の勧請をさかんにしたとも伝えられる。稲荷社と神明社が相殿とされているのもその一つの証拠である。

### (二) 霊神・御魂さま

福生の屋敷神のうち、もっとも注目されるのは霊神ないしミタマサマと称される神である。伝承によれば、霊神は稲荷よりよく古いといわれ、家を守る神であってなかには古い位牌を御神体としているものもある。稲荷社のなかにボツン・ボツンと存在するが、祭祀のあり方は正月にモチとオミキをあげるぐらいではっきりとしないが、何か古い信仰の形をとどめていると予想される。この点については、屋敷神の神体のあり方とからめて後述したい。

### (三) その他

稲荷社以外に、多くの神々が屋敷神とされているが、大きく分けて三つの勧請形態があったとみなされる。その第一は、居住地を移すなかで他地域から移転されたものであ

る。山神がその代表であるが、これは奥多摩の小河内ダム  
の建設によって福生市内へ移住した人達もってきたもの  
で、山に祀られていた山神が福生の地で屋敷神化したもの  
である。

第二は、福生およびその周辺に展開した民間宗教家ない  
し寺院などの手によって個人的にすすめられ、祀るようにな  
ったものである。御岳などは、御岳などの御師の布教によ  
って祀り始め、現在も配札が行なわれている。I家の弁  
天などは、一家の主人が病氣になり、病氣の原因を占って  
もらいに大丹波の中山文殊教会に行き、その結果として祀  
るようになったし、I家の不動も行者のすすめによったと  
伝えられている。このほか、祈禱師のすすめによったものも多  
くみられるが、福生市内の永昌院の存在も無視できないも  
のがある。というのも、屋敷神の移転や社殿の改築にあた  
って旧修験の流れをくむ永昌院が多く招かれていた事実、  
蚕影社の勧請をすすめた点などから、諸神仏を人々にすす  
めたことが想像される。

第三のものとして、伊勢参りと関連しての勧請である。  
前述した以外に、春日社などが先祖の伊勢参りにもなっ  
て勧請されたとの伝承もみられ、幕末から明治期にこの地  
でも伊勢参りが盛んであったことから事実であろう。

## 二、屋敷神の神体

福生で祀られる屋敷神のご神体の多くは、幣束・木札・  
鏡が多いが、ことに注目されるのは丸石ないし自然石をご  
神体とすることである。自然石をご神体とするのは、稲  
荷・水神・霊神・不動など多岐にわたり、とくにどの神が  
ということとはできないが、稲荷・霊神が比較的多い。丸い  
自然石をご神体とする事例は、各地にみられるが、土地に  
よっては祖霊がよりつくものとも考え、海辺などでひろっ  
てきて屋敷神として祀るところもある。こうした事例と福  
生の事例とがすぐには結びつかないが、それでも祖霊とみ  
なされる霊神のご神体が石であることや、K家の稲荷が単  
に流行神ではなく祖霊を稲荷として祀っている点などから、  
丸い自然石が祖霊をあらわすものとしてきたのではないか  
とも考えられる。もっと大胆な推論をするなら、もともと  
丸い自然石をもって祖霊のよりつくものと考え、これを屋  
敷地内に祀っていたのが背景となって、流行神としての稲  
荷がおきかわっていったとも考えられる。ことに、霊神が  
そのご神体として先祖の古い位牌をもって考えるとき、他  
地域でみられる死者の年忌明けに海辺などでひろった石を  
祖霊として祀る点とよく似かよって来る。屋敷神の起源に  
まで言及することはできないが、死者の年忌明け後のあり  
方、祖霊祭祀のあり方、霊神の神格を結びつける資料があ  
れば、先きの推論もあながち的はずれとはいえない。

### 三、屋敷神の祭祀形態

稲荷を中心とする屋敷神の祭祀は、多く屋敷神を所有する家によっておこなわれているが、なかには共同で祭祀されている場合もみられる。共同祭祀のあり方は、近隣集団によるもので、牛浜地区の延元之宮正一稲荷を事例としてまずとりあげてみよう。この稲荷の由緒について次のような伝承がみられる。この正一位稲荷は、K家に行者が行き倒れとなり、その行者がもっていた「延元」の年号を記した伏見稲荷の木札を祀ったもので、安政二（一八五五）年の頃、稲荷の社格が与えられ、K家とその近隣の家で稲荷講を結成するにいたったと伝えている。屋敷神がまさに地域神へとなったことを物語っているが、中福生の平六稲荷も同様である。

さて、屋敷神の祭祀は稲荷の場合は初午が祭日となり、稲荷の旗をたて油アゲやメザシなどを供えるのが一般であるが、他の祭神の場合は正月などにモチや洗米それに酒を供えればよい方であるくらいである。意外に祭祀のあり方が、稲荷にしても簡素であるのには理由がある。それは、もともと多い稲荷の祭日に、屋敷神から発展したものも含むが地域神としてのより広い信仰圏をもつ稲荷社の稲荷講がおこなわれるためである。この稲荷講は、ニワバと称される地域の人々が殆んど参加するところであり、このため

個人の屋敷神としての稲荷の祭りはかすんでしまうのであると考えられる。では、屋敷神としての稲荷を多く祭祀しながら、なぜより大きな地域神としての稲荷を祀るのであるうか。

### 四、屋敷稲荷からニワバ稲荷へ

屋敷神として稲荷を多く勧請してきたが、それ以外に地域神としてニワバを単位とする稲荷が祀られてきた歴史がみられる。この両者は、どのような関係にあるのであろうか。屋敷稲荷の呼称を再度ふりかえてみると、「豊繁・福富・福德・遠寿・小玉」など豊作や招福を願ったのがみられ、各家の繁栄を願っての流行神の勧請があったことが知られる。そして、多く幕末の大きな社会変動期にかさなるのも特色である。しかし、これと同じ時期と推定されるがニワバの稲荷も成立していったようである。南地区の場合をみると、この地の稲荷社は酒造家の一家の門前にあり、「熊川村誌稿」によれば「稲荷大明神ト称ス 明治二年己巳社号改替ス 字南村民石川弥八郎外廿九戸ノモノ累代崇敬スル所ニテ 旧反別五畝歩除税地ニアリ」と記されているが、南というニワバのメンバーを講員として稲荷の祭祀がおこなわれてきた。この稲荷講は、祭祀集団というより、機能の上からすると膳椀倉を持ちまことに互助会として存在したのである。福生の地区でも同じであるが、恐

らく近世末に成立したとみられるが、膳椀倉を所有し、それを貸し出して互いに助け合う稲荷講が出現したのである。そして、この稲荷講は互助的機能ばかりでなく、ムラの寄合いとしての機能をも持つようになり、村制の中核とさえなっていたのである。これは、何を意味しているのか、あえて推論するなら近世末の大きな社会変動のなかで、個人よりもっと大きな単位で、地域の招福を願わざるを得なくなるなかで地域神として稲荷が勧請され、ついで生活の互助組織に経済変動のなかで稲荷の変質が図られたのではないかとみなされる。それでも、屋敷神としての稲荷は近代のなかで、養蚕の盛行のなかで豊蚕を祈る神として存続していったとみなされる。

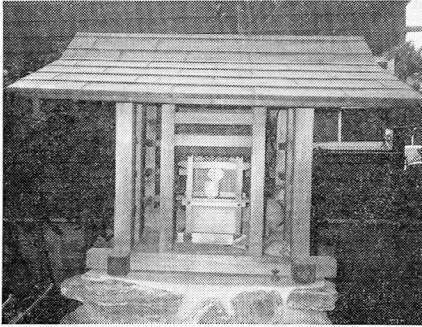
## おわりに

福生市における屋敷神の実態をみてきたが、いくつかの特色が指摘できる。第一に、近世末に流行神として稲荷が受容され、招福を願って屋敷神として祭祀された傾向の強いこと。第二に、稲荷より古く屋敷神祭祀が行なわれていたとみなされ、それも祖霊を屋敷地内に祀ったと考えられること。第三に、近世末の社会変動が屋敷神としての稲荷をより大きな地域の神へと昇格させ、ムラぐるみの招福を願うまでに発展していったとみなされること。第四に、伊勢参りなどの影響によって、宗教者の手になるばかりでな

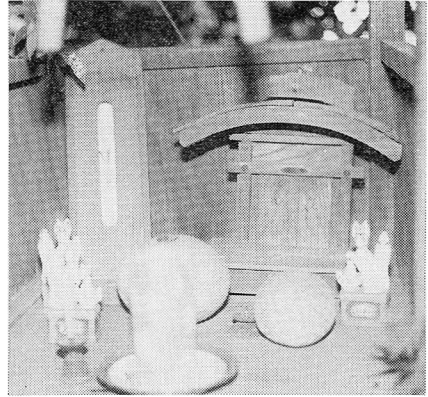
く自からの手によって、著名な神が勧請され始めたこと。以上のような特色をあげることができ、福生の人々の暮しぶりを考える時、もっとも注目されるのは近世末における社会と信仰とのかかわりかと思われる。稲荷信仰の受容の背景を、歴史的に解明していくなかでもっと屋敷神や地域神のありようが明確になって行くかと考えられる。ことに、ニワバを単位としての稲荷講の成立について究明して行くのが今後の課題といえる。

なお、本稿を草すにあたって調査メンバーである「ゆずりは」の人達の力になることが大きいことを記し、お礼申しあげておきたい。

(かわかみ・かずお 市史編集専門委員 都立神津高校教頭)

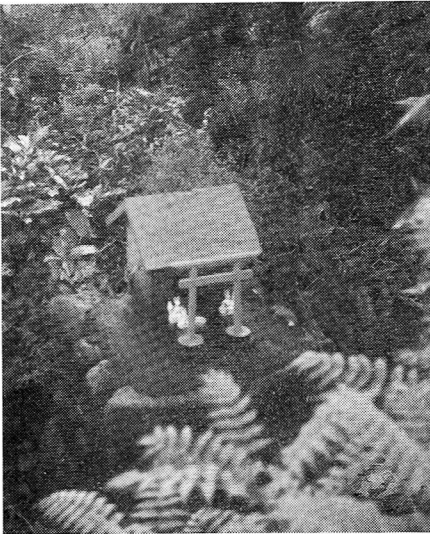


丸石のご神体



丸石のご神体

## 屋敷神の諸相



正一位稲荷・石祠



正一位稲荷・木祠

# 屋敷神資料

〈福生〉

No.	所在地	呼称(祭神)	神体	祭日	祠堂	方角
1	福生 626	豊繁稲荷大明神		初午		北東
2	626	福富稲荷大明神		"		
3	620	猿田彦大明神	鏡	"		
4	605	正一稲荷大明神	幣束	"	木祠	東
5	597	"	ミキノクチ	"	コンクリ ート	東南
6	595	"			木祠	東
7	588	穴守稲荷		初午	木祠	
8	594	正一稲荷大明神		正月元旦初午	コンクリ ート	西
9	600	正一八幡稲荷大明神	丸石・幣束	初午	"	東
10	568	正一稲荷大明神		"	木祠	東
11	644	穴守稲荷		"	コンクリ ート	西
12	556	福徳稲荷		"	木祠	北東
13	555	正一稲荷大明神	木札・幣束		木祠	北西
14	572	藍神	丸石・幣束	1・15日	木祠	西
15	548	正一稲荷大明神		初午	木祠	
16	537	"	幣束	"	木祠	南
17	537	熊太郎稲荷大明神				
18	544	正一稲荷大明神	木像	初午	木祠	南東
19	1160	"		"		
20	1167	豊川稲荷大明神	木札	"	"	東
21	519	正一位稲荷大明神	"			西北
22	519	御魂霊神	"			
23	511	稲荷				
24	502	稲荷大明神				
25	502	諏訪				
26	469	正一位小玉稲荷大明神				
27	470	正一位稲荷大明神				
28	470	春日大明神				
29	470	金山				
30	476	稲荷				
31	487	御岳				
32	480	伏見森田稲荷大明神				
33	480	金神				
34	480	弁天				
35	482	正一位稲荷大明神	丸石			
36	482	弁天	白蛇			



No.	所在地	呼称(祭神)	神体	祭日	祠堂	方角
37	福生 482	水神	石			
38	479	笠間稲荷大明神	幣束			
39	467	稲荷				
40	455	正一位福德稲荷大明神				東南
41	435	正一位稲荷大明神				
42	436	徳明稲荷				
43	437	遠寿稲荷				
44	440	正一位稲荷大明神				
45	432	三宝大荒神	石			
46	427	正一位平穴稲荷				
47	427	弁天				
48	425	竜神				
49	421	正一位稲荷大明神				
50	418	正一位金山大明神	木札			南
51	419	正一位穴守稲荷(おい わ稲荷)				
52	413	正一位稲荷大明神				
53	414	"	幣束			
54	411	"	"			
55	199	弁天	"	4月15日	木祠	南
56	198	霊神	"		ヨントリ	南東
57	192	東伏見稲荷大明神	"	2月11日	木祠	東
58	193	金神	"	"	"	西
59	215	正一位大明神			"	南
60	253	霊神	木札・木像		木祠	東
61	271	"	木札		"	西北
62	275	稲荷大明神	幣束	2月11日	"	南東
63	275	不動	丸石		"	南
64	278	霊神	幣束		ヨントリ	東
65	276	正一位稲荷大明神	"	2月11日	"	西南
66	669	弁天	木札		木祠	南
67	669	熊野	木札	9月15日	"	"
68	669	豊川稲荷	幣束	2月11日	"	"
69	669	金神	"		"	"
70	696	五社稲荷大明神	"	2月11日	"	"
71	647	正一位稲荷大明神	"	"	"	北
72	682	"	"	"	"	南
73	682	水天宮			石塔	西
74	682	弁天	石			西南
75	685	正一位稲荷大明神	幣束	2月11日	木祠	南

No.	所在地	呼称(祭神)	神体	祭日	祠堂	方角
76	福生 686	正一位茶木稻荷大明神		2月11日	"	西南
77	697	清水観音	幣束		"	南
78	675	正一位稻荷大明神	"	2月11日	"	"
79	638	"	"	"	"	東
80	638	稻荷大明神	"	"	"	"
81	638	弁天	石		石祠	南東
82	1109	正一位田守稻荷大明神	幣束	初午	"	東
83	1109	荒神	像		石祠	"
84	1104	正一位稻荷大明神	幣束	初午	木祠	西南西
85	1104	不動	石			
86	1121	正一位稻荷大明神	幣束	初午	石祠	南
87	1119	稻荷大明神	"	"	"	"
88	1105	弁天	木札		木祠	東南
89	1120	正一位稻荷大明神	幣束	初午		南
90	1123	正一位稻荷大明神	幣束	初午		南
91	1146	豊川稻荷大明神	鏡・幣束	"	木祠	南
92	1146	正一位伏見稻荷大明神	木札	"	"	"
93	1145	弁天	幣束		"	"
94	1154	山神	幣束			"
95	1178	稻荷	木札	2月11日	木祠	東南
96	1199	正一位稻荷大明神			"	東
97	1200	"		初午に近い日曜日	石祠	"
98	1203	弁天		毎月1日	石祠	"
99	1206	正一位稻荷大明神		初午に近い日曜日10月	木祠	"
100	1206	豊川稻荷大明神	木札	2月11日	石祠	"
101	1208	正一位末広稻荷大明神		初午に近い日曜日10月		北
102	1210	"	鏡	"	木祠	西東
103	1211	稻荷				
104	1213	"		初午	木祠	南西
105	1213	水神		1・15月	石祠	南西
106	1214	地神	丸石		木祠	南
107	1217	弁天	鏡・木札		木祠	"
108	1241	八幡			"	東南
109	1241	中野原稻荷大明神			石祠	"
110	1243	稻荷			木祠	南
111	1243	弁天			木祠	北東
112	1247	ジジ ヌウ神	丸石		"	南東
113	1242	稻荷			"	西
114	1230	霊神	丸石			南

No.	所在地	呼称(祭神)	神体	祭日	祠堂	方角
115	福生1224	正一位稻荷	木札			東
116	1224	御霊様	丸石			西
117	1762	正一位伏見稻荷	幣束	2月11日		西
118	1759	稻荷	"	"		東南
119	1761	正一位稻荷大明神	木札	"		東
120	1223	御霊様	木札			西
121	1760	オシヤモジ様	幣束			南
122	1706	正一位稻荷	木札	2月5日		南東
123	1772	"	幣束	2月11日		南
124	1284	正一位伏見稻荷	木札	"		西
125	1729	"	幣束	2月15日		南
126	1226	正一位豊川稻荷	鏡	2月11日		南東
127	1230	"	"	"		南

〈熊川〉

1	熊川1024	大塚稻荷	幣束	初午	木祠	南
2	1024	浜中稻荷	"	"	"	"
3	1024	白笹稻荷	"	"	"	"
4	1023	御岳	木札	12月8日	"	"
5	1029	マンゾウサン	幣束	8月8日	"	北
6	920	正一位稻荷大明神		初午	"	西
7	920	山神	幣束	毎月25日		"
8	987	正一位稻荷大明神	"	初午	"	北西
9	1058	"	"	"	"	東南
10	1000	白笹稻荷	"	"	コンクリ ート	南
11	998	稻荷				
12	1001	正一位稻荷大明神	幣束	2月11日	コンクリ ート	南
13	1004	"			"	
14	1004	弁天	幣束		木祠	西南
15	1011	白笹稻荷	"		"	
16	965	正一位川辺稻荷大明神	幣束	初午	木祠	東
17	965	御岳	幣束・札	12月8日	"	"
18	965	八幡	"		"	"
19	647	八幡	"		石祠	南
20	694	正一位稻荷大明神	幣束	初午	"	南東
21	671	弁天	"	毎月2日	木祠	南
22	670	正一位稻荷大明神	"	初午	"	東
23	328	ミタマサマ	"		"	"

No.	所在地	呼称(祭神)	神体	祭日	祠堂	方角
24	熊川 339	稻荷大明神			〃	〃
25	341	正一位稻荷大明神	幣束	初午	石祠	北南
26	624	〃	〃	〃	〃	南
27	624	水神	石		〃	〃
28	629	稻荷			木祠	〃
29	711	〃	幣束		木祠	東南
30	711	山神	石		石祠	東北
31	609	穴守稻荷	幣束	初午	石祠	南
32	682	山神	〃	2月11日	〃	〃
33	683	稻荷		〃	〃	〃
34	815	山王稻荷	丸石	〃	祠木	
35	751	靈神	幣束		〃	西南
36	655	正一位稻荷大明神	〃	初午	〃	南
37	695	〃	木札	〃	〃	東南
38	697	大黒稻荷	〃	〃	〃	
39	707	児島稻荷	〃	〃	〃	

〈志茂・牛浜・加美平〉

1	志茂 30	正一位稻荷大明神	木札	初午	木祠	北東
2	20	正一位平六稻荷大明神	キツネ	〃	〃	南
3	24	正一位清水稻荷大明神	木札	〃	〃	南
4	3	正一位稻荷大明神	幣束	〃	コンクリート	東
5	4	不動	自然石	五月	祠木	東
6	11	正一位明德稻荷		初午	木祠	南
7	10	正一位稻荷大明神	木札	〃	〃	〃
8	牛浜 4	〃	幣束	〃	〃	北東
9	5	金神	石		コンクリート	
10	6	金堀稻荷		2月11日	〃	南東
11	6	ミタマサマ			〃	〃
12	30	金山	幣束		〃	南
13	加美平3-38-9	笠間稻荷	木札	2月11日		南
14	3-21-3	正一位稻荷		〃		